

ZENBUTSU

全仏



No.
546

仏暦2552年 1月
[2009年]



11月16日早朝、浅草寺の本堂前で撮られた世界仏教徒会議参加者の記念写真(東京) 撮影 田村 仁氏

目次

- 新年のご挨拶 松長有慶会長・豊原大成理事長
- 第24回世界仏教徒会議日本大会報告
- 世界仏教徒会議 大会宣言文
- 加盟団体をゆく 第22回 国際仏教興隆協会
常務理事会開催
- 大阪府佛教徒大会・埼玉県佛教徒大会・長野県仏教徒大会
- 第25回 仏教主義学校連盟弁論大会

新しい年の飛躍を願って



会長

松長 有慶

二〇〇九年の年頭にあたり、皆さまの御健勝と更なる御活躍と世界の平和を祈念いたします。

昨年十一月十四日より十七日にかけて東京・浅草を中心として開催されました第二十四回世界仏教徒会議日本大会におきまして、全世界の仏教徒が集まり「仏教者の社会問題解決への貢献」をテーマとして盛大な大会が開催されました。

この大会を通じて、アジア、ヨーロッパ、アメリカ、そして主催国の日本の仏教者が互いの連携をなお一層深め、現在世界の人々が直面するさまざまな現実的な課題に対応する積極的な姿勢を確認し合ったことは大きな成果であったと思います。

上座部、大乘さらに金剛乗、それぞ

れの仏教徒が一同に会し、教理上の差異を超えて、平和、環境汚染、ターミナルケア、人材育成、人種や性差別、等々の現代社会が抱えるさまざまな課題に熱心に取り組むことの出来た、画期的な大会であったことも印象的でした。

さらに十六日に浅草寺で行われた世界平和法要も、参加された世界の仏教徒に大きな感銘を与えました。

これらの輝かしい成果を踏まえて、日本の仏教徒も互いの信仰を尊重しつつも、宗派の隔たりを超えて、今年もまた地球的な規模で問題視されるさまざまな現実的な課題に、積極的に取り組んでいきたいと念願しております。

合掌

年頭のご挨拶



理事長

豊原 大成

平成二十一年の年頭に当たり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

年号が「平成」に変わって早くも二十年が経過したかと、唐・善導大師のお言葉「時光遷流転」と共に「忽至五更初」、ああこれは我が身のことと、あらためて痛感している昨今でございます。

昨年十一月に東京・浅草で開催されました第二十四回世界仏教徒会議等の諸会議は、皆様方のご協力と海外からの多数の参加を得て、非常に成功裡に終了いたしましたこと、まずは有難く、厚く御礼申し上げます。但し、会議が単に会議倒れになること無く、今年からはその精神の実践・実現のために、従来以上の強力な歩みを進めねばなりません。

それにしても昨年は、国の内外を問わず、シヨッキングな事件や事象の連

続でした。国内の数々の痛ましい事件は勿論ですが、特に東南アジア仏教国の代表格でもあり、「ほほえみの国」と言われてきたタイ国での政治的混乱は、「あの国でさえも！」と驚きです。

戦後六十余年、我が国の社会が「平和ボケ」と言われるようになって既に久しいのですが、この言葉が仏教界にも当てはまるようになっては大変です。

今こそ私たち仏教徒全体が、更に深く釈尊の御教えを学び、そのお心に帰り、力を合わせて、人類の真の安寧と幸福のために、大きな歩みを進めるべき時と存じます。

皆様様のこの上とものご支援ご指導をお願い申し上げます。

合掌

第二十四回世界仏教徒会議日本大会報告

第二十四回世界仏教徒会議（主催世界仏教徒連盟WFB）が、一月十四日より十七日まで「仏教者の社会問題解決への貢献」をメインテーマに、東京・浅草ビューホテルと浅草寺を会場に開催された。日本では三十年ぶり三度目の開催となった。

二十三ヶ国八十二センターから三一二名の海外参加者、また国内からも加盟団体代表者を中心に各日の行事に約二百名、十五日のシンポジウムには一般の参加者二百五十名、十六日浅草寺で行われた世界平和法要には、地元仏教会・ボーイスカウト等のボランティアを全て合わせて約四百五十名が内外より参加した。

一、WFB会議関係

①WFB執行役員会議

大会開会の前日の十三日にWFB執行役員会議が開催された。

会議では第七十四回執行役員会議議事録・事務局報告の承認、財務・監査報告、各常設委員会からの活動報告、WFB功労賞対象者の選定、新規加入申し込み地域センターの検討および審査、WFB憲章の改訂について、役員選挙の

方法、ユネスコにおけるWFB常設事務所設置について、翌日開催されるWFB総会のプログラムの詳細、ルンビニー園復興事業推進について、次回WFB執行役員会議開催場所について、以上が協議・報告された。

②WFB総会

十四日午前八時半より、総会が開催された。前日の執行役員会議を受けて、十七の新規加入地域センターが承認された。

また執行役員選挙が行われ、本会からは国際交流審議会委員の戸松義晴師が立候補し、八人枠の中で、二位の得票を集めて当選をほたした。

③WFB第一回全体会議

十四日午後八時に開催。会長にはパン・ワナメッティ氏が全会一致で再選された。次にWFB副会長選挙が行われ、十五人枠に十九人の立候補があった。本会から小林正道常務理事が立候補し、二位で当選。

また、九つの常設委員会委員長を選出も行われ、本会から正本乗光国際交流審議会委員が、人道支援委員会の委員長に選出された。

④WFB第二回全体会議



WFB副会長に当選した
小林正道常務理事（右から二人目）

十六日午後八時に開催。各国から提出された決議案が提案、検討される中、本会からは、WFBの人道支援の基金を効果的に運営・活用する為の特別委員会設置の決議案を提出し承認された。委員選定についてはWFB会長の一任となった。

また、今大会を以て勇退された松濤弘道WFB副会長（本会理事）にWFBより名誉副会長の称号が贈られることが承認された。更に、前日行われたWFB常設委員会の結果が報告された。

また、今大会の大会宣言文案が提出され、満場一致で承認された。（大会宣言文に関しては六七頁参照）

⑤WFB常設委員会

十五日夕刻に開催。WFBには(1)財務委員会、(2)出版・広報・教育・文化・芸術委員会、(3)仏教伝道活動委員会、(4)人道支援委員

会、(5)統一連帯委員会、(6)青年委員会、(7)社会経済開発委員会、(8)女性委員会、(9)持戒委員会、以上の九つの常設委員会が委員長の下、活動を行っている。

本会が新たに委員長職を拝命した人道支援委員会では、現在までの本会の災害復興支援等の実績を基に、今後のWFBの救援活動について検討された。

二、全体行事

①開会式

十四日午後一時より、パロップ・タイアリーWFB事務総長が開会宣言。続いてハンドチャイムアンサンブル「和風天人」の伴奏で、立正大学「ブンダリーカ」合唱団が「WFBソング」を会場に来場した数多くの参加者と共に斉唱した。

次に、松長有慶会長が釈尊の「縁起」の教えの持つ相互連関性、「一切衆生」「共生」の思想に触れ、大会の成果が世界人類の平和共存と幸福の実現に寄与できるように期待する旨の、歓迎挨拶を英語で行った。

パン・ワナメッティWFB会長は、「私たちは本日、仏教の教えによって人類の平和と幸福を実現することが可能であるとの信念のもとにここに集い、全員がその目



開会式で挨拶を行う
松長有慶会長

的に向かって力を合わせて活動することを誓う」と挨拶を行った。

続いて、先般のミャンマー及び中国地震に関してのWFB救援基金協力者への表彰が行われた。日本からは、全日本仏教会、浄土宗平和協会、孝道教団、臨済宗妙心寺派靈雲院、全日本仏教青年会へ、それぞれ表彰状が授与された。

引き続き、WFBへ貢献した各国の功労者へ表彰、WFBの救援活動を紹介するビデオが上映された。

また、タイ国最高位長老のメッセージ、タイ・プミポン国王のメッセージがそれぞれ代読された。最後に松濤弘道WFB副会長より閉会の辞が述べられた。

② 歓迎懇親会・交流懇親会

開会式の後、十四日夜には海外代表の他に各宗管長・宗務総長、

仏教会会長をはじめとする加盟団体の代表者・政界代表、関係団体代表者が参加しての歓迎懇親会が行われた。

若槻繁隆副会長より開会の辞、松長有慶会長の歓迎の辞、ダト・クー・レン・フンWFB名誉副会長、アヌロット・ボンバーニWFB Y会長、ガネシュ・ヨンザン・タマン駐日ネパール大使、鴻池祥肇内閣官房副長官等から祝辞があり、民主党の藤谷光信参議院議員の発声で乾杯。

合唱団がレパートリーを披露する中、和やかな雰囲気に参加者は夕食を楽しんだ。最後に、豊原大成理事より閉会の辞が述べられた。

翌十五日は、政界関係者や本会各団体関係者、及び本会OBを交えて交流懇親会が盛大に開催された。橋本明禪副会長より開会の辞、WFBアナンダ・グルゲ副会長の挨拶、来賓では自由民主党の細田博之幹事長、民主党政策審議委員会長の福山哲朗参議院議員が挨拶。パロップ・タイアリーWFB事務総長の乾杯で歓談となった。

余興は地元浅草の子供達による「浅草わんぱく太鼓」の演奏が元気に行われ、海外参加者は熱心に見入っていた。最後に東條仁哲副会長の閉会挨拶で幕を閉じた。

尚、本大会では懇親会を始め会期中、酒類の提供は行わず、食事はベジタリアン料理中心で提供された。

③ 人権セミナー

十四日の夕刻開催。加盟団体内権担当者を対象に、女優の黒田福美氏と、東京大学客員教授の洪鐘秘氏を講師に迎え、本会が推進する「朝鮮半島出身者、旧民間徴用者の遺骨返還」と日韓友好を進めるために、韓国での帰郷祈念碑除幕式を一事例としてセミナーが開催された。

④ 映画・ゲストトーク

十五日午前には、環境とグローバリゼーションの問題を取り上げたヘレナ・ノーバーク・ホッジ氏製作の映画『幸せの経済学』を上映した。この映画上映を受けて、A・T・アリアヤラトネ、ジョアンナ・メーシー、湯川れい子各氏を提言者に、ケネス・田中氏（本会国際交流審議会委員）をコーディネーターにゲスト・トークが行われた。そこでは経済のローカリゼーション（地域化）と仏教の「縁（起）」の思想をめぐり多角的な視点から意見交換がなされた。

⑤ シンポジウム

同日午後からは、七つの部会（平和と共生・社会開発・終末期医療・ジェンダー・自殺・人材育成・

環境）に分かれてシンポジウムを開催した。

各パネルでは、パネリストが世界各国で仏教的立場から様々な社会的課題に取り組んでいる現況が、詳細な具体例と共に報告された。

続いて、仏教者の立場から今後どういった形でこれらの問題を解決していくべきか討論された。

このシンポジウムには仏教主義学校連盟所属学校の生徒及び教員の方々を招待し、参加者は熱心に耳を傾けていた。



一般公募の参加者も、シンポジウムに多数詰めかけた

⑥ 研修セミナー

海外から見た日本仏教の現況と今後への期待について、シンポジウム・パネリストのジョン・ハリファックス（米）、パイサン・ウイサロ（タイ）の両師より提言を頂いた。

⑦世界平和法要

十六日早朝、小雨の降る中、浅草ビューホテルから、約三五〇名の参加者が六班に分かれて浅草寺へ出発した。

浅草・下谷・東京都仏教連合会会員各位、仏教英語プログラム（BEP）のメンバー、地元のパール・ガールスカウト、浅草商店連合会・浅草観光連盟各位、本会加盟団体国際関係部局からの応援者等、多数ボランティアの連携の下、大行列を浅草寺へ誘導した。

午前八時に浅草寺本堂前で記念撮影（表紙写真）の後、参加者は伝法院に移動。江戸千家宗匠並びに一門より抹茶接待を受けた。皆それぞれに、記念写真を撮るなど大喜びであった。

伝法院出発後、各国の僧衣・民族衣装を身につけた大行列はオンライン通り、雷門前通り、雷門から仲見世通りを数千人の観光客が見守る中、ゆつくりと練り歩いた。

伝法院前にて、地元で募集された稚児が合流、続いて松長有慶会長ら役職者が合流した。

行列は、浅草寺本堂に到着後、午前十時四十五分、本堂で清水谷孝尚副会長（浅草寺貫首）の大導師、浅草一山式衆の下、世界平和法要が厳修された。法要に続いて清水谷孝尚副会長が法要の願意を

垂示、続いてパン・ワナメッティ WFB会長も挨拶。参加者は各々が平和への思いを込め、真摯に合掌・礼拝した。



殿そかに行われた世界平和法要（浅草寺）

⑧記者会見

十六日夕刻、内外の報道関係者を対象に記者会見が開催された。

WFB会長・事務総長、WFB Y会長、本会会長及び理事長、小林正道常務理事、WBU理事が出席した。

直前の第二回全体会議で採択された大会宣言文が資料として配られ、大会報告の後、質疑応答が行われた。

⑨閉会式・懇親会

十六日夜、浅草ビューホテルにて閉会式が行われた。

豊原大成理事長が開会挨拶。続

いて日程が無事終了したことを受けて松長有慶会長、パン・ワナメッティ WFB会長、アヌロット・ボンバーニ WFB Y会長より、それぞれ御礼の挨拶。続いて、浅草商店連合会の恩田信一副理事長の発声で乾杯が行われた。また地元浅草の協力者も多数招待された。

歓談を挟み、本部への大会旗（仏旗）返還、各国代表からのプレゼント贈呈が行われた。仏像、揮毫、その他数多くの記念品が各国代表より贈られ、本会からは返礼品として黒色漆塗りの褒賞盆と、二〇〇五（平成十七）年に終了した本会のルンビニー園復興事業の報告書『ルンビニー マヤ堂の考古学調査』が贈られ、事業の集結が各国代表に報告された。

続いて各国参加者を代表してベトナムのテック・ホック・タン師が挨拶。各国代表が壇上で肩を組み歌を合唱したり、再会を誓うなど和やかな雰囲気の中、最後に西村輝成副会長より閉会の辞が述べられた。本大会の写真がスライド形式でスクリーンに映され、参加者一堂が大きな感銘を覚える中、大会は無事終了した。

三、WFB Y・WBU会議

本大会は、第十五回世界仏教青年会議（以下 WFB Y会議）、

第七回世界仏教大学会議（以下 WBU会議）が併催された。

WFB Y会議では、役員選挙、新役員による執行役員会議の他、各国で行われている青年仏教徒交流プログラム等今後の活動について活発に検討が行われた。また、大会会期の最終日十七日、全日本仏教青年会主催により、奈良・東大寺で約千三百名参加の下、千僧法要供養が行われた。同日、奈良市内でアヌロット・ボンバーニ WFB Y会長、各国からの代表出席の下、全日本仏教青年会創立三周年記念式典が行われた。

WBU会議は十四日夜に開催され、今後の組織運営等について検討された。

四、その他

十四・十五日の両日、ホテル会場内で本会のルンビニー園復興事業、並びに本会の概要・活動状況についてパネル展示を行った。

また、事前に本会加盟団体に協力を呼びかけて、加盟団体の英文出版物の無料頒布コーナーを設置。海外参加者に直接、本会加盟団体の活動を広報した。

WFB本部が作成し、本会に寄贈された法輪旗、仏旗、大会旗を大会中掲揚した。

「第二十四回世界仏教徒会議」

「第十五回世界仏教青年会議」

「第七回世界仏教大学会議」

大会宣言文

平成二十年十一月十三日から十七日の間、東京浅草で開催された第二十四回世界仏教徒会議において、我々参加者は以下のよう
に宣言する。

・我々は全日本仏教会の心尽くしの歓待および、開催に際しての手際の良い企画運営に深い感謝の意を表す。

・今大会では「仏教者の社会問題解決への貢献」というテーマのもと、過去の実績に基づき、経済安定、平和と共生、終末期ケアにおける社会開発、ジェンダー問題、自殺問題、青少年育成、そして環境問題に関する、さまざまな課題と向き合う機会となった。

・我々は世界の仏教徒が、生きとし生けるもの全ての幸福のため、各々の伝統を通じ教えを広めるといふ重要な役割を果たしていることを認識する。

・来る二〇一一年のベサツクにおける釈尊成道二千六百年記念行事を契機として仏教徒の社会問題に対しての意識を高め、財源

のゆるす限りの多くの事業を検討の上で実施する。

・仏教国にも被害が及んだ近年の自然災害に思いを致し、被災地に対して迅速且つ適切な人道支援を行う、世界仏教徒連盟の役割拡大のため引き続き尽力する。

・最後に、今一度「慈・悲・喜・捨」の四無量心の教えに還り、人類のため仏教を広めることを全ての仏教徒に奨励する。

世界仏教徒会議日本大会 大会宣言文について

世界仏教徒会議日本大会における大会宣言文起草するため、宣言文案起草委員会が十一月十四・十五日の両日開催された。同会議には、本会代表からも意見具申がなされた。

十六日に開催された第二回WFB全体会議に於いて前記の宣言文が承認された後、七頁掲載の日本側の宣言文も取り上げられ、両宣言文が併せて承認された。



宣言文案を検討する起草委員会（撮影 田村仁氏）

私達、世界の仏教徒は、東京・浅草につどい、第二十四回世界仏教徒会議、第十五回世界仏教青年会議、第七回世界仏教大学会議を開催した。今大会では、Buddhists' Contribution to Resolving Social Problems「仏教者の社会問題解決への貢献」のメインテーマのもと、諸会議、シンポジウム、法要などを行った。

シンポジウムに先駆けて、映画「幸せの経済学」が上映された。この映画は、世界各地で地域社会の解体を引き起こし、自然環境を破壊しているグローバル化に対して、地域の経済的・社会的・文化的つながりを再び強めるローカル化の必要性を訴えている。シンポジウムでは、世界の各地で起きている社会問題（自殺、青少年育成、ジェンダー、終末期医療、平和構築、社会開発、環境）について、各国の仏教者が人々と同じ目線で、それぞれの地域の中で行なっている実践的な取り組みが数多く報告され、今後私達が仏教者として歩むべき道が検討された。

そして釈尊の説かれた「苦」（様々な社会問題の認識）、「集」（問題の原因を把握）、「滅」（解決のための目的設定）、「道」（具体的な解決への努力）という四諦（したい）の教えの道筋に従い、仏教者がそれぞれの地域社会の持つ特性を生かし、その中で自らが

具体的な行動へと踏み出すべき事が提案された。さらに、各地の寺院が地域の調和と人々の幸せの為に中心的な役割を担うことの必要性が強調された。

また大会では、具体的な行動への第一歩として、第二次世界大戦の空襲で破壊され、本年で再建五十年を迎えた浅草寺本堂を会場に、人々の変わらぬ平和への願いの込められた世界平和法要が、多くの地域社会の人々の協力のもと行なわれ、本大会参加者三百七十余名が随喜した。

WFBは、昨今のミャンマーでの社会情勢への対応、また同じくミャンマーでの水害、中国での地震復興支援など、各国センターとの連携のもと、有効な活動を行っている。私達世界の仏教徒は、今こそ釈尊が説かれた「縁起」の教えのもと、互いの価値観を尊重し、共に連携し、人々と苦悩を共有し、多くの社会問題解決へと具体的な行動を起こすことを宣言する。

そしてこの大会の成果が今後、WFBと関係諸国の仏教者の新たな活動の端緒となり、宗教を超えて広く一般社会へと及ぶことを期待する。

加盟団体をゆく

《第二十二回》国際仏教興隆協会

今回は、国際仏教興隆協会 安田暎胤理事長（法相宗管長）及び同協会のインド現地法人を担当する大工原彌太郎事務総長に葉師寺東京別院に於てお話を伺いました。



国際仏教興隆協会
安田暎胤理事長（法相宗管長）

―団体の活動で、力を入れていらっしゃる点についてお聞かせ下さい。

国際仏教興隆協会は一九六八年、東京目黒に発足し、昨秋創立四十周年を迎えました。

当協会発足の目的は「仏教国として、釈尊ご成道の地ブツダガヤ

に日本の寺の建設を」との声の高まりを受けての日本寺建設で、超宗派合同で日本寺を建設しました。

日本寺建設は、一九七〇年から数次に亘る計画と建設が行われ、国際仏教会館・本堂・鐘楼・無料保育施設（菩提樹学園）・無料医療施設（光明治療院）等の施設ができました。現在は第三次計画として、仏教学東洋学研究所の設立を計画しております。

これら施設の建設及び維持・運営はとも当協会の力だけでは不可能です。宗派・団体の垣根を越えて、各方面からの多大な協力を頂きました。また、今後も数多くの方々のご協力無しにはとても進めてゆくことが出来ません。

国内の方々に、インドに関心を持つて頂く為の取り組みとして、シンポジウム（左頁参照）を開催したり、「ヒューマンサポートプログラム」というプロジェクトの

もとに個人協力者の募集を行い、より多数の方々に協力・参画して頂く為の活動を展開しております。

インド現地での活動としては、無料保育・医療施設での活動が非常に喜ばれています。地道な活動を通じて活動の輪は広がり、国際仏教徒結集という、各国仏教者を集めての討論会を毎年開催しています。これは三十年以上継続しており、今後も宗教・宗派を超えた発展的討論・対話の場を提供してゆきたいと考えております。

また、座禅の指導要望も非常に多く寄せられ、数年前から妙心寺派の方にインドに来て頂き、指導頂いております。今後もこうした、日本仏教への理解を深める取り組みも継続してゆきます。

―今後の仏教界の在り方について、指針をお聞かせ下さい。

日本仏教は檀家制度により運営・活動が行われている寺院が多数です。檀家制度は、檀信徒とより深い繋がりがもてるという長所と、寺院の独立の精神が弱まってしまうという短所があると思います。良い生活を求めるのでは無

く、今以上に人間力の向上を図らなくてはならないでしょう。その為には、僧侶は積極的に修行をして人間を磨くべきだと思います。

修行は何も、行に限った事ではありません。何か一つの事も、自分で積極的に苦勞を体験してゆくことが肝要と思います。

―昨今の様々な社会問題について、感じていらっしゃる思いをお聞かせ下さい。

自殺の問題、終末期医療の問題等々、先般開催された世界仏教徒会議のシンポジウム等で取り上げられた社会問題は深刻な問題です。

これら問題の解決には、僧侶がそのリーダーシップを取り、社会のオピニオンリーダーになる事によつて、これら社会問題の解決を図ってゆくべきではないかと思えます。

ビハラー活動等、近年僧侶の社会的活動が活発になってきた兆しは感じております。世の中で今一番困っている問題に対し焦点を当てて進んでゆく。それも立派な修行の一つの形だと思えます。

―本会の活動へのご意見・ご要望をお聞かせ下さい。

加盟団体間においても、お互いの団体の性質や活動を充分理解しているか、という点と必ずしもそうでないのが現状と思います。

全日本仏教会の加盟団体間の相互理解や連絡がより親密になるような広報活動を是非お願いしたいです。

超宗派の連合体は、協力できる事業に各団体の力を集結してゆくの一番良いのではないかと感じます。全日本仏教会も、事業の推進等を通じて「魅力のある」会を目指して頑張つて頂けたら、と思います。(談)

インド・ブッダガヤ日本寺 駐在僧募集のお知らせ

国際仏教興隆協会では、インド・ブッダガヤ日本寺を活動の中心として、二年間現地で活動をして頂く「駐在僧」を募集しております。所属宗派は問いません。お問い合わせは左記国際仏教興隆協会事務局まで。

(財)国際仏教興隆協会

03-3711-7608

Email: ibba@nifty.com

国際仏教興隆協会 シンポジウム開催

「インドはどこに行くのか」

十一月二十五日、南青山の梅窓院に於いて、財団法人国際仏教興隆協会主催の第四回シンポジウム「インドはどこへ行くのか」が開催された。

シンポジウム開会に際し、安田映胤理事長が挨拶。その後、宮本久義氏（東洋大学インド哲学科教授）が「多宗教・多民族国家インド―共生社会への模索―」をテーマに講演が行われた。



講演を行う宮本久義東洋大学インド哲学科教授

宮本氏は講演の中で、「現在インドでは人口の約八十パーセント強を占めるヒンドゥー教徒と約十パーセントのイスラーム教徒のそれぞれ一部が各地で対立している」と現状を述べた。さらに、「バナラスを中心とした宗教対立の歴史的経緯を、アヨーディヤ問題等を例に挙げて具体的な説明があった。また、バナラスの略史・祭礼や、宗教観に関する事など、祭礼を行う際の思想的・文化的背景に関する事など詳しい説明があった。

引き続き、インドのナシヨナリズム運動に関しては、ガンディー(1869-1948)の政治理念との違いが比較された。

ガンディーはインドの独立運動に絶大な貢献をした一方で、ヒンドゥー的価値観の至上視という流れもガンディーが残したものの一つであると述べた。インドでは、現在に至るまで宗教テロにより要人が次々と暗殺されているのが現状であり、宗教テロ対策の困難さを語った。

結びに、閉鎖系の共生から開放系の共生に移行するためには、非暴力での持続的な対話が必要である。テロにテロで報復する暴力の連鎖は、ヒンドゥー教・イスラーム教それぞれの教徒が不毛と感じており、対話の場が徐々に広がってきていると述べた。

講演の後、質疑応答が行われ、「インドの一部で共産党毛沢東派を称するテロの動きがあるが、中印関係は今後悪化するか?」「カシミールの国境線は、現在のこの程度で済んでいるのか?」等、質問も多数出され、この問題に関する関心の高さを感ずる事ができた。

国際仏教興隆協会では、今後もうこうしたシンポジウムを継続して開催する予定である。多くの方々に来場して頂けるようお声掛けをしていきたい、旨の閉会の挨拶で終了した。

財団法人 国際仏教興隆協会

ホームページ

http://homepage2.nifty.com/ni_pponji/

年 新 賀 謹

総本山金剛峯寺 高野山真言宗

座長	松長有慶	管長	庄野光昭	執行部長	永島龍弘	宗務部長	村上保壽	執務部長	飛鷹全隆	法會部長	森寬勝	執務部長	山階清隆	山林部長	岡部兼海	総長公室長	深真樹	社会人局長	倉岡弘叔	教学部次長	柏田良辯	内事長	加古原大岳	奥の院維那	坎宥行	伽藍維那	四之宮弘孝	東京別院主監 東京務出張所長	佐々木弘博	堀川別院主監 京都宗務出張所長		和歌山県伊都郡高野町高野山一三二 〒648-0294 〇七三六(五六)二〇一一 FAX 〇七三六(五六)四六四〇 http://www.koyasan.or.jp/
----	------	----	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	-------	-----	-------	------	-------	------	-----	-------	-------	-----	------	-------	-------------------	-------	--------------------	--	---

臨濟宗妙心寺派宗務本所

管長	東海大光	宗務部長	細川景一	総務部長	松井宗益	教学部長	栗原正雄	財務部長	松山英照	本部園長	一色宏襄	本部園長	川島謙宗	花園會 館部長 (兼)松井宗益		京都市右京区花園妙心寺町六四 〒616-8035 〇七五(四六三)三二二一 http://myoshinj.or.jp/
----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----------------------	--	---

天台宗務庁

天台座主	半田孝淳	宗務部長	濱中光礼	総務部長	谷晃昭	法人部長	壬生照道	財務部長	山本亮裕	参学部長	水尾寂芳	参社会部長	源田俊昭	参一隅を照らす 運動総本部長	秋吉文隆	大津市坂本四丁目六番二号 〒520-0113 〇七七(五七九)〇〇二二 FAX 〇七七(五七九)二五二六 http://www.tendai.or.jp/
------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	-------	------	-------------------	------	---

真言宗智山派宗務庁 総本山智積院法務所

管長	阿部龍文	宗務部長	岡部快圓	総務部長	小宮一雄	教学部長	細川大憲	教化部長	岡野忠正	法務部長	江連俊裕	財務部長	芙蓉良英	宗務出張所長 別院執事	高麗行真	京都市東山区東大路七条下ル 東瓦町九六四 〒605-0951 〇七五(五四)二五三六一 http://www.chisan.or.jp/
----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	----------------	------	--

真言宗豊山派宗務所

管長	小野塚幾澄	宗務部長	川田聖成	総務部長	高橋秀三	財務部長	五十嵐賢二	教務部長	粕谷利通	教化部長	小倉秀清	教化センター長	大越恒範	真言宗豊山派総合研究院 院長	加藤精一	東京都文京区大塚五十四〇一八 〒112-0012 〇三三(九四五)〇六三九 FAX 〇三三(九四五)〇七〇二 http://www.huzan.or.jp/
----	-------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	---------	------	----------------	------	---

年 新 賀 謹

総本山仁和寺
真言宗御室派
御室流華道総司庁

管門
長跡
南
揚
道

宗執行
務総長
立
部
祐
道

総執
務部
長行
沖
田
定
信

教
学部
長行
清
水
實
道

財
務部
長行
西
仁
海

京都市右京区御室大内三三
〒616-8092 〇七五(四六一)一一五五
FAX 〇七五(四六四)四〇七〇
<http://www.ninnajior.jp>
E-mail office@ninnajior.jp

真言宗醍醐派宗務本庁
総本山醍醐寺寺務所

座管
主長
麻
生
文
雄

宗務
執行
務総長
仲
田
順
和

総執
務部
長行
岡
田
祐
雄

教
学部
長行
田
村
照
晃

財
務部
長行
壁
瀬
宥
雅

京都市伏見区醍醐東大路町二二
〒601-1325 〇七五(五七二)〇〇〇二
FAX 〇七五(五七一)〇一〇一
<http://www.daijioji.jp>
携帯電話でも御覧頂けます。



融通念佛宗
総本山大念佛寺

法管
主長
倍
巖
良
舜

宗務
執行
務総長
吉
村
暲
英

法
学部
長
中
江
慈
光

庶
務部
長
岡
田
眞
澄

財
務部
長
北
川
全
宏

大阪市平野区平野上町
〒547-0045 〇六(六七九)〇〇二六
一七二六

天台眞盛宗宗務所
総本山西教寺

管
長
西
村
岡
紹

宗務
執行
務総長
武
田
圓
寵

教
学部
長
三
津
堯
賢

財
務部
長
藤
上
良
英

社
会部
長
砂
原
圓
凝

庶
務部
長
色
井
秀
宰

滋賀県大津市坂本五一三一一
〒520-0113 〇七七(五七八)〇〇一三
FAX 〇七七(五七八)三四一八

法華宗陣門流

管
長
椿
澤
日
壽

宗
務
総
長
土
屋
善
敬

総
務
部
長
佐
古
弘
文

教
学部
長
田
邊
円
祥

教
化部
長
佐
古
大
弦

財
務部
長
牧
野
秀
成

宗
務
参
事
金
原
孝
宜

法華宗宗務院
東京都豊島区巣鴨五三三五六
〒170-0002 〇三三(三九一)七二九〇
FAX 〇三三(三五七)〇〇二二

謹 賀 新 年

財団法人 埼玉県佛教会

会 長 藤 田 得 三

副 会 長 萩 野 映 明

同 木 村 盛 雄

専 務 理 事 深 谷 雅 良

常 務 理 事 穂 山 教 雄

同 加 藤 玄 靜

同 倉 持 秀 裕

同 杉 村 良 哉

事 務 局 長 金 子 嘉 広

さいたま市浦和区高砂 四一三一一八
〒330-0063 〇四八(八六二)二一三八
FAX 〇四八(八六四)六六四九
<http://saijutunev/>

大阪府仏教会

会 長 増 田 貞 圓
(真宗大谷派 圓勝寺)

副 会 長 北 村 日 照
(日蓮宗 櫛笥寺)

同 森 田 俊 朗
(和宗 四天王寺)

同 辻 本 戒 雲
(浄土真宗本願寺派 常照寺)

同 村 山 廣 甫
(曹洞宗 東光院)

同 井 桁 雄 弘
(浄土宗 大圓寺)

事 務 局 長 二 上 寛 弘
(真言宗 釈迦院)

事 務 局 次 長 大 阪 市 住 吉 区 墨 江 三 一 七 一 八
〒558-0043 〇六六(六七)三二五九
FAX 〇六六(六七)三二五〇四

社団法人 全日本仏教婦人連盟

名 譽 会 長 鷹 司 誓 玉

会 長 大 谷 貴 代 子

副 会 長 稲 山 靈 芳

同 大 賀 美 都 子

同 末 廣 久 美

理 事 長 島 田 喜 久 子

事 務 局 長 林 惠 智 子

東京都渋谷区千駄ヶ谷 四一五一一一二〇五
〒151-0051 〇三(五七七)〇六七七
FAX 〇三(五七七)〇六七七
<http://jbwfljp>
E-mail: info@jbwfljp

財団法人 仏教伝道協会

会 長 沼 田 智 秀

理 事 長 福 山 諦 法

理 事 中 西 智 海

同 木 村 清 孝

同 桂 紹 隆

同 門 脇 邦 彦

監 事 中 野 東 禪

同 野 村 邦 武

東京都港区芝四丁目三十一四
〒108-0014 〇三(三四五)五八五一

金峯山修験本宗 総本山金峯山寺

管 長 五 條 順 教

宗 務 総 長 田 中 利 典
執 行 総 長

奈良県吉野郡吉野町吉野山
〒639-3115 〇七四六(三二)八三七一
FAX 〇四七六(三二)四五六三

孝道山 本仏殿

第 二 世 統 理 岡 野 正 貫

副 統 理 岡 野 鄰 子

第 三 世 統 理 岡 野 正 純

横浜市神奈川区鳥越三八
〒221-0064 〇四五(四三二)一一〇一

年 新 賀 謹

<p>宗務総長 藤崎 広学</p> <p>管 長 中村 日玄</p> <p>京都市左京区岩倉幡枝町九十一 〒606-0015 〇七五(七九)七一七一 FAX 〇七五(七九)七二六七</p>	<p>顕本法華宗</p>	<p>妙見宗務本庁 大阪府豊能郡能勢町野間中七一八 〒563-0132 〇七二(七三七)〇〇二八 FAX 〇七二(七三七)一八五八</p> <p>宗務総長 谷口 真祐</p>	<p>妙見宗</p> <p>管 長 野間 秀昭</p>
<p>本山宥清寺 〒602-8336 京都市上京区一条通七本松西入 滝ヶ鼻町一〇〇五番地の一 TEL 〇七五(四六三)四六二〇(代) FAX 〇七五(四六三)四六五一</p> <p>本山宥清寺 〒602-8377 京都市上京区御前通一条上る 東堅町一〇番地 TEL 〇七五(四六二)一一六六(代) FAX 〇七五(四六四)五五九九 URL http://www.honmon-butsumiyushu.or.jp/</p> <p>宗務総長 佐藤 日鳳</p> <p>講 有 小山 日誠</p>	<p>本門佛立宗 本山宥清寺</p>	<p>宝塚市米谷字清シ一番地 〒665-0837 〇七九七(八六)六六四一 FAX 〇七九七(八六)六六六〇 http://www.kiyoshikojin.or.jp</p> <p>執行長 有井 良隨</p> <p>宗務長 岡田 康秀</p> <p>法管 主長 坂本 光謙</p> <p>鐵齋美術館 館長 森藤 光宣</p>	<p>真言三寶宗 大本山清澄寺</p>
<p>愛知県仏教会</p> <p>会 長 吉田 教行</p> <p>副会長 田畑 修身</p> <p>同 伊藤 正導</p> <p>同 岩木 涼山</p> <p>名古屋市昭和区高峯町四八 普蔵寺内 〒466-0811 〇五二(八三三)九七二〇</p>	<p>東京都足立区梅田一―二十六―十 善立寺内 〒123-0851 〇三(三八八六)一三六七 FAX 〇三(三八八六)八二五二</p>	<p>東京都足立区梅田一―二十六―十 善立寺内 〒123-0851 〇三(三八八六)一三六七 FAX 〇三(三八八六)八二五二</p> <p>事務局長 新倉 典生</p> <p>理事長 山田 一眞</p> <p>会 長 井上 瑞雄</p>	<p>東京都仏教連合会</p>
<p>財団法人 国際仏教興隆協会</p> <p>名誉会長 塩川 正十郎</p> <p>理事長 安田 暎胤</p> <p>事務総長 正本 乗光</p> <p>役員 一同</p> <p>東京都目黒区中目黒五―二四―五三 〒153-0061 〇三(三七一一)七六〇八 FAX 〇三(三七一一)七六七三 http://homepage2.nifty.com/nip-pontji/ E-mail: ihba@nifty.com</p>	<p>四国中央市川之江町一七七五 宅善寺内 愛媛県佛教会事務局 〒799-0101 〇八九六(五八)三三〇〇</p>	<p>四国中央市川之江町一七七五 宅善寺内 愛媛県佛教会事務局 〒799-0101 〇八九六(五八)三三〇〇</p> <p>同 二宮 泰慶</p> <p>副会長 片井 祥雲</p>	<p>愛媛県仏教会</p>
<p>真言宗中山寺派 大本山中山寺</p> <p>宝塚市中山寺二丁目十一―一 〒665-8588 〇七九七(八七)〇〇二四 FAX 〇七九七(八七)九八七七 http://www.nakayamadera.or.jp</p>	<p>和歌山県岩出市根来二二八六 総本山 根来寺内 〒649-6202 〇七三六(六二)一一四四 FAX 〇七三六(六二)一〇四四</p>	<p>総本山 根来寺</p> <p>新義真言宗宗務所</p>	<p>聖観音宗 浅草寺</p> <p>貫 首 清水谷 孝 尚</p> <p>東京都台東区浅草二―三―一 〒111-0032 〇三(三八四二)〇一八一 FAX 〇三(三八四五)六九三三</p>

年 新 賀 謹

<p>臨濟宗南禪寺派</p> <p>宗務総長 後藤 憲雄</p> <p>京都市左京区南禪寺福地町八六 〒606-8435 〇七五(七七)〇三六五 FAX 〇七五(七七)〇六九八九 http://www.nanzennet E-mail: info@nanzennet</p>	<p>時宗宗務所</p> <p>宗務長 高木 貞歡</p> <p>神奈川県藤沢市西富一―八一― 遊行寺内 〒251-0001 〇四六(二三)七二七六</p>	<p>真言宗 犬鳴派 大本山 七宝瀧寺</p> <p>管 長 東條 仁哲</p> <p>真言宗犬鳴派宗務所 大阪府泉佐野市大木八 〒598-0023 〇七二(四五)七〇四三 FAX 〇七二(四五)七〇五〇</p>
<p>大本山 大覚寺 真言宗大覚寺派宗務庁</p> <p>管門 長跡 下泉 恵尚</p> <p>京都市右京区嵯峨大沢町四 〒616-8411 〇七五(八七)〇〇七一 FAX 〇七五(八八)二四九一一</p>	<p>東寺真言宗</p> <p>宗務総長 橋本 尚信</p> <p>京都市南区九条町一 東寺真言宗宗務庁 〒601-8473 〇七五(六七)三七一七 FAX 〇七五(六六)一六八五六 http://www.engakujor.jp/</p>	<p>臨濟宗円覚寺派</p> <p>大本山 円覚寺</p> <p>鎌倉市山ノ内四〇九 〒247-8503 〇四六(七二)〇四七八 http://www.engakujor.jp/</p>
<p>滋賀県仏教会</p> <p>会 長 西村 冨紹</p> <p>滋賀県大津市坂本五―一三―一 総本山西教寺内 滋賀県仏教会事務局 〒520-0113 〇七七(五七八)〇〇一三 FAX 〇七七(五七八)三四一八</p>	<p>岐阜県仏教会</p> <p>岐阜市西野町三一― 岐阜西別院在会所西側入口 〒500-8882 〇五八(二六六)七八〇三 FAX 〇五八(二六六)七八〇三 http://bukkyogifu.net/</p>	<p>福島県仏教会</p> <p>会 長 横山 俊邦</p> <p>専務理事 網代 智盟 事務局長 阿部 泰志</p> <p>福島市山口市寺前五 安洞院 〒960-8202 〇二四(五三四)〇九三九</p>
<p>北海道仏教会連盟</p> <p>会 長 藤井 純恵</p> <p>札幌市中央区北三条西十九丁目二―一 浄土真宗本願寺派北海道教区教務所内 〒060-0003 〇一一(六一)一九六二三</p>	<p>法相宗</p> <p>管 主 安田 暎胤</p> <p>奈良市西ノ京町四百五十七番地 薬師寺 〒630-8363 〇七四(二三)六〇〇一</p>	<p>日本佛教鑽仰会</p> <p>理事長 中山 静磨</p> <p>東京都板橋区舟渡四―十五―一 〒174-0041 〇三(三九六七)三二八八</p>
<p>真言宗須磨寺派 大本山 須磨寺</p> <p>貫 主 小池 弘三</p> <p>寺務長 吉井 恵貫</p> <p>神戸市須磨区須磨寺町四―六一―八 〒654-0071 〇七八(七三)〇四一六</p>	<p>天台寺門宗 和宗 念法眞教 真言宗善通寺派 真言宗山階派 真言宗泉涌寺派 真言宗国分寺派 信貴山真言宗 浄土宗西山禅林寺派 浄土宗西山深草派 西山浄土宗 真宗高田派 真宗仏光寺派 真宗興正派 真宗木辺派 臨濟宗建長寺派 臨濟宗相国寺派 臨濟宗東福寺派 黄檗宗 法華宗本門流 法華宗真門流 本門法華宗 聖徳宗</p>	<p>真言宗須磨寺派 大本山 須磨寺</p> <p>貫 主 小池 弘三</p> <p>寺務長 吉井 恵貫</p> <p>神戸市須磨区須磨寺町四―六一―八 〒654-0071 〇七八(七三)〇四一六</p>

年 新 賀 謹

- 華厳宗
- 真言律宗
- 青森県仏教会
- 岩手県仏教会
- 茨城県仏教会
- 栃木県仏教会
- 群馬県仏教会連合会
- 千葉県仏教会
- 神奈川県仏教会
- 新潟県仏教会
- 石川県仏教会
- 福井県仏教会
- 山梨県仏教会
- 長野県仏教会
- 静岡県仏教会
- 京都仏教会
- 京都府仏教会連合会
- 兵庫県仏教会
- 和歌山県仏教会
- 鳥取県仏教会連合会
- 島根県仏教会
- 岡山県佛教会
- (社)徳島県仏教会
- 香川県仏教会
- 高知県仏教会
- 福岡県仏教会連合会
- 長崎県仏教会連合会
- 宮崎県仏教会連合会
- 沖縄県仏教会
- (社)日本仏教保育協会
- 東京ブディストクラブ
- 全日本仏教青年会
- 仏教情報センター

- 会長** 松長 有慶
- 副会長** 清水谷孝尚
中村 文峰
東條 仁哲
椿澤 日壽
大野 玄妙
若槻 繁隆
橋本 明禅
西村 輝成
- 理事** 豊原 大成
- 常務理事** 湖 英徳
不二川公勝
不破 仁
小林 正道
小松 淨慎
庄野 光昭
細川 景一
濱中 光礼
岡部 快圓
川田 聖成
- 理事** 佐々木孝一
桑羽 隆慈
関崎 幸孝
田中 信道
張田 珠潮
岡部 兼海
松山 英照
谷 晃昭
上杉 照延
粕谷 利通
武田 圓龍
座間 光覚
守山 雄順
谷口 真祐
壁瀬 宥雅
吉井 恵貫
岡田 康秀
東條 仁靖
杉浦 秀祐
長岡 正明
安田 義樹
高木 貞歡
松浦 浩道
佐分 宗順
青木 謙整
原井 慈鳳

- 監事** 林 晋堂
萩野 映明
吉田 教行
- 評議員** 伊藤 文元
増田 貞圓
服部 文昭
松濤 弘道
安原 晃

- 参与** 佐古 弘文
藤崎 広学
村上 太胤
古谷 正覚
佐伯 龍幸
藤井 純恵
大井 亮
小保方教円
青柳 雅明
矢坂 誠徳
家森 宏善
玉久 圭澄
小角 隆幸
一月 正人
吉田 海心
善國 乘憲
島田 喜久
五條 良知
- 田中 利典
黒髪 寛延
石堂 恵眼
鬼頭 誠英
大谷 義博
中江 慈光
今杉 康道
高井 正俊
竹内 正道
加藤 乗安
筒井 寛昭
横山 俊邦
都筑 玄澄
山口 祐哉
高岸 義昭
長澤 香静
川島 謙宗

- 総務財政審議会** 山田 本然
津村 泰雅
高山 久照
逸見 道郎
安孫子虔悦
- 社会人権審議会** 坂田 徹応
和治 教文
栗生 孝
浅野 義光
田澤 元泰
深 真樹
神代 紹文
源田 俊昭
小宮 一雄
小島 恵真
健代 和央

- 国際交流審議会** 山下 昭文
富樫 珠徳
倉井 正則
長 亮行
森 寛勝
松山 英照
谷 晃昭
芙蓉 良英
五十嵐賢二
大谷 義博
矢吹 慈英
新倉 典生
近藤 真道
林 恵智子
長谷川正浩
宮川 宏生
安田 松慶
- 宗教教育推進委員会 副委員長** 小池 孝範
藤丸 智雄
柴田 達也
赤平 法導
望月 哲也

- 広報委員会** 松尾 徹裕
富永 慎秀
齋藤 明聖
赤平 法導
太田 順祥
岡部 兼海
並木 優記
福井 邦彦
杉本 栄次
上田 則夫
山本 昭弘
虎山 義秀
高山 久照
- 財団創立50周年記念 事業実行委員会** 岡部 兼海
花岡 博芳
杉谷 義純
小寺 秀仁
粕谷 利通
星野 英紀
奈良 康明
齋藤 昭俊
島蘭 進
藤原 聖子
- 委員長** 豊原 大成

常務理事会開催

十二月四日(火)午後一時三十分より東京プリンスホテルにおいて常務理事会が開催され、

一、「平成二十一年度事業計画大綱について」

二、「平成二十一年度予算大綱について」

三、「公益法人制度改革と本財団の公益財団法人への移行について」

以上の三件について慎重に協議された。

協議事項一及び二については、全会一致で賛同を得た。協議事項三に関しては、本件に取り組んでいくためには加盟団体の顧問弁護士・公認会計士等の専門家の助力を得て対応していく必要があるのではないかとの意見があり、今後そのような集まりを設けることを検討することとなった。

また報告事項として、財団創立五十周年記念事業の現況と、賛助会員制度の運用などについて報告された。

第四十三回 大阪府佛教徒大会開催

十一月十一日、ホテル日航大阪に於いて第四十三回大阪府佛教徒大会が開催され、本会から深澤信善事務総長が出席した。

式典の後、「日本はどうなる？日本をどうする！」をテーマに、亀井静香国民新党代表代行と野中広務元自民党幹事長が特別講演を行った。

講演の中で、亀井氏は「小泉改革」を激しく批判。また、現政権に対しても「早く民意を問うべき。国民の判断に委ねなければならぬ」と、麻生首相を批判した。野中氏も「小泉改革」に言及した。

また一方、仏教界にも苦言を呈した。「新しい時代を切り開く、仏教の理念は生まれるのか。上座に座る皆さんが、上座に座る意味を噛みしめて、新しい人の道を導いてもらいたい」と期待をこめた。質疑では、創価学会問題についての質問が出された。

亀井氏が応答し、「宗教団体がこの世をよくしていくための方策

として政治を無視していくわけにはいかない。政治に対して堂々と要望なり発言するのは当然であり、選挙運動をするのは自由である」と述べ、法を超えるやり方を示した。

大阪府佛教徒大会は、毎年時事問題、政治的・社会的問題に踏み込んだシンポジウムを継続して開催している。(『全仏』誌五二九号参照)

第三十一回 埼玉県佛教徒大会開催

十一月二十日、蕨市 三学院極楽殿に於いて第三十一回埼玉県佛教徒大会が開催され、約三百名が参集した。

開会では、埼玉県佛教会 藤田徳三会長の導師で法楽が行われた。

引き続き、松平實胤師(愛知県寂光院)が「人生心豊かに」をテーマに記念講演を行った。

人には、「愛されたい・ほめられたい・お役に立ちたい・認められたい」の「四求」があると述べた上で、今まで出会った人達との出来事を面白おかしく交え講演が行

われ、会場内は時折大きな笑いに包まれていた。

最後に、記念演奏「智山雅楽会」による付楽が演奏された。

第五十四回 長野県佛教徒安曇野大会開催

十一月二十日、安曇野市豊科サンモリッツホールに於いて第五十四回長野県佛教徒安曇野大会が開催され、約三百名が参集した。

開会では、長野県佛教会 小松玄澄会長が導師をつとめ、法楽が行われた。会場内にはご詠歌が鳴り響いていた。

記念講演として、青山俊董師(愛知専門尼僧堂長)が「仏の誓願に生きる」をテーマに講演。

中日新聞で掲載された青山師のコラムの内容に沿って、女性へ向けての「愛・慈悲・母」についてやさしく語られ、会場は和やかな雰囲気になっていった。

閉会式では、檀信徒代表が大会宣言文読み上げた。最後に、次期開催地となる上伊那仏教会 上野徳修会長が挨拶。来年度大会は平成二十一年十一月二十一日に開催されることが報告された。

事務総局録事

十一月(十一～三十日)

十一日▼大阪府佛教徒大会出席

▼厚生労働省・外務省・内閣官房・文化庁関係者

来局

十二日▼成田空港に世界仏教徒連盟会長等出迎え

十三日▼無料法律相談室

十四日▼第二十四回世界仏教徒会議日本大会(於 浅草ビ

ューホテル・浅草寺 至

十七日)

▼人権セミナー

十八日▼広報委員会

十九日▼文化庁宗務課「新公益法人制度に係る説明会」出席(於 三田共用会議所)

▼局内会議

二十日▼第三十一回埼玉県佛教徒大会出席(於 蕨市 三

学院極楽殿)

二十一日▼浅草等、関係各所に御

礼

二十五日▼日本仏教保育協会創立

八十周年記念式典出席

(於 帝国ホテル)

▼国際仏教興隆協会シンポジウム出席(於 梅

窓院)

二十六日▼第五十四回長野県仏教徒安曇野大会出席(於

サンモリッツホール)

二十七日▼無料法律相談室

▼仏教音楽祭出席(於 五反田ゆうぽうと)

▼ICS・JTB来局

二十八日▼第二十五回仏教主義学

校連盟弁論大会出席(於 立正学園)

三十日▼曹洞宗保育連合会創立五

十五周年記念大会出席(於 東京プリンスホテ

ル)

十二月(一～五日)

一日▼局内会議

▼栃木県仏教会企画会議出席(於 観専寺)

二日▼総務財政審議会

三日▼日本宗教連盟「第三回宗教と生命倫理シンポジウム」

出席(於 日本青年館)

▼芝仏教会会長来局(救援基金寄託)

金寄託)

四日▼常務理事会(於 東京プリ

ンスホテル)

祈りの世界 ⑨

浅草寺は年に一度は訪れてみたいお寺である。それは利便性にもあるが、お寺の境内やその周辺の雰囲気、お寺の境内やその周辺の雰囲気がどこも一律化してしまった今、浅草寺やその周辺を歩くに在りし日の良き下町の姿が蘇り心安らぐのである。日頃、祈ることを忘れてしまつたと思われる若者達も観音さまの前では自然に合掌して祈る姿が何とも清々しい。

浅草寺には年間三千数百万の参拝者が訪れるという。昔から浅草寺の観音さまはあらゆる願い事を叶えてくれると庶民から親しまれてきたが、それは今も昔も変わることがないようである。

(文章及び写真 田村 仁氏)



聖観世音菩薩像 東福門院奉納(浅草寺蔵)

全仏からの

お知らせ・お願い

・「花まつり」ポスターの刷新について
本会にて頒布しております「花まつり」ポスターを、刷新致します。新しい図柄は、ホームページ及び本誌三月号(三月一日発行予定)にて、告知及び申込方法を掲載いたします。

また、「花まつり」行事の普及・促進のため、全国各地の「花まつり」に関する各種開催情報等を随時募集しております。全日本仏教会までお寄せ下さい。
ホームページ及び機関誌等において紹介させて頂きます。

・『全仏』誌 広告協賛のお願い
広告掲載ご希望の方は、全日本仏教会までお問い合わせ下さい。

・世界仏教徒会議日本大会プログラム配布について
世界仏教徒会議日本大会において配布致しました大会プログラムをご希望の方は、全日本仏教会にお問い合わせ下さい。(送料のみご負担願います)

無料法律相談室

長谷川正浩顧問弁護士による、無料法律相談を毎月第二、第四木曜日の午後開催しております。本会事務総局03(3437)9275へ事前予約の上、お来し下さい。

第24回世界仏教徒会議日本大会開催記念 第25回仏教主義学校連盟弁論大会開催される

11月28日午後1時15分より、東京・立正学園石橋湛山記念講堂において、首都圏の仏教系の中学・高等学校の連合体である仏教主義学校連盟主催による第25回弁論大会が開催された。

今大会は、特に第24回世界仏教徒会議日本大会の開催を記念し、将来を担う仏教者育成の観点より本会協賛の下、行われた。

大会では18名の生徒の弁論が行われ、どの弁論も感動を自分の言葉で表現する努力が行われており、会場を埋めた各校の生徒・教員からは大きな拍手が送られていた。

弁論終了後、本会深澤事務総長が挨拶、全日本仏教会会長賞として、1位の聖徳学園中学2年、御厨佳帆さんに賞状と本会松長会長の色紙が副賞として贈られた。他の入賞・参加者にも記念品として本会の腕輪念珠と来年公開される映画「禅」の鑑賞券が贈られた。



入賞者・主催者記念撮影



全日本仏教会会長賞贈呈

第24回世界仏教徒会議日本大会写真集



お練りは多数の参拝者の中行われた



連日に及ぶ会議では熱心な議論が
交わされた



講演する映画制作者の
ヘレナ・ノーバーク・ホッジ氏



稚児と本会会長・WFB会長及び事務総
長夫妻との記念撮影（撮影 田村仁氏）

※ 大会の写真は本会ホームページにも順次掲載させていただきます。